

「令和6年度課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」 成果報告書(概要)

プロジェクト名
AIを活用した光学衛星とSAR衛星データによる
固定資産異動判読調査業務の効率化

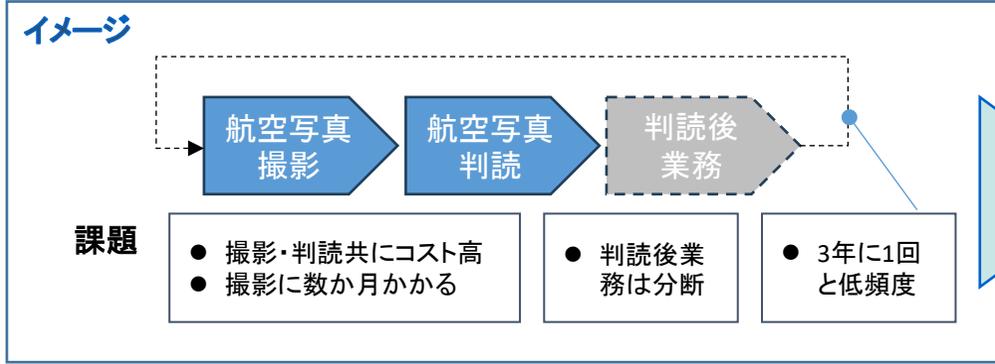
サービス利用者名
長野市

サービス提供者名
株式会社Ridge-i

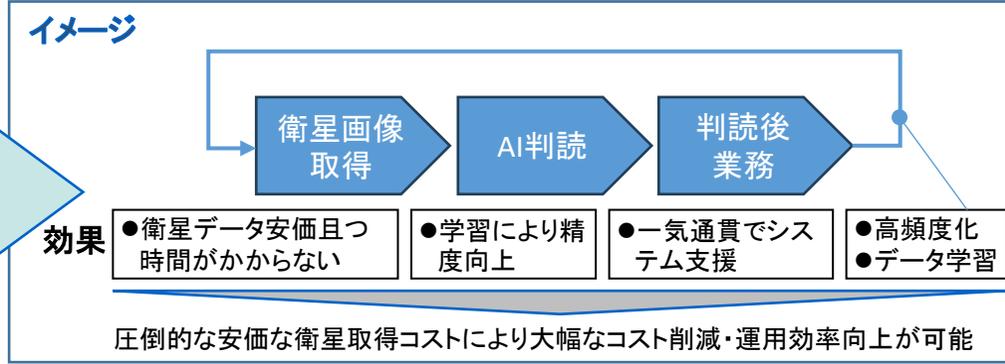
プロジェクト概要

地方自治体の業務に固定資産異動判読調査業務があり、毎年家屋の変化を捕捉し、公平公正な課税を実施しているが、航空写真画像を活用した業務に関わるコストが高く、コスト削減が課題。
今回、航空写真画像よりも安価な光学衛星画像データ及びAI技術を活用し固定資産異動判読業務のコスト削減と業務効率化を目指す。

導入前



導入後



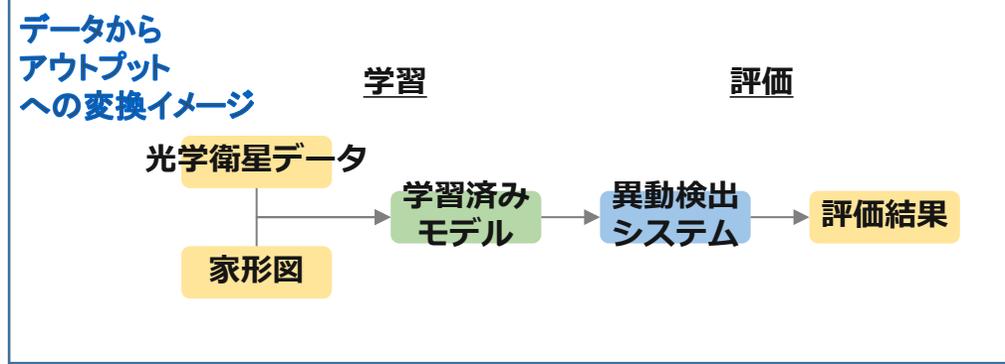
活用したデータの種類

<衛星名およびセンサ>

- 光学画像 (MAXARのWorldView-3の画像を利用)
- SAR画像 (QPSのSAR画像を利用)

<地上データ>

- 家形図 (長野市保有)
- 異動判読図 (長野市保有)



衛星データに関する要望

- オフナディア (撮影角度) による位置ずれが検出精度に大きく影響する為、オフナディアが小さい衛星データが取得できるか
- また、天候や影の影響も受ける為、撮影日時等データ選択肢が十分あるかも重要

サービス導入による効果(定量的に)

- 既存業務では1.5億円/回 (5,000万円/年) の業務費用だが、航空写真撮影 (5,000万円/回) から安価な衛星データ (約200万円/回) 取得にAI技術を掛け合わせると、目標で掲げていた20%削減・3,000万円/回 (1,000万円/年) の効果を見込む

※1 フォントサイズは10pt以上とすること。 ※2 A4サイズ横1枚以内に収めること。 ※3 申請代表者を下線で示すこと。